

工藤綾乃

鈴木勝吾

寺田 農

小林綾子

中村玉緒

君が、いるから



企画のねらい

「子ども・若者の人権」—幸せにつながる社会をめざして—

今回の作品のテーマは、「子ども・若者の人権」です。

子どもや若者は、社会の希望であり、未来をつくる存在です。しかし、現実を顧みると、子どもや若者が被害者や加害者になる悲痛な事件が後を絶ちません。今この時も虐待やいじめなどにより人権を侵害され苦しんでいる子どもや若者が「すぐ隣り」にいることに、私たちは気づかなければなりません。

この作品は、母親からの心理的虐待に悩む若者「奏」が主人公です。生き方を制限され、自分が愛されていると感じることができず自己肯定感

の低い彼女も、コンビニエンスストアを舞台とした「ほんの小さな冒険」をきっかけに少しずつ変わっていきます。彼女は、そこで出会う人々とのふれあいを通して新たな価値観に気づいていきます。ともに心を通わせ、信頼することの先に「希望」と「幸せ」があることを奏の成長を通して描きます。

子どもや若者が社会的に成長し自立していくために、人と人とが関わり支えあいながら希望の種をまいていく、そんな社会の実現をめざす人権啓発ドラマを制作します。

企 画／兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
企画協力／兵庫県教育委員会
制 作／東映株式会社

上映時間 36分 DVD…字幕副音声版





母親からの心理的虐待に悩む予備校生の水越奏^{みなと}。自由な買い物さえ許されず、自分の好きなものを自分で買うことに憧れていた奏は、予備校からの帰り道、思い切ってコンビニエンスストアに立ち寄る。そこで店員の中井欣子から店の手伝いを頼まれる奏。初めての仕事に戸惑いながらも喜びを感じた奏は、母には内緒でアルバイトとして働くことに。

1ヶ月ほどたったある日、一組の母娘が来店する。機嫌が悪い母の優奈は、棚のお菓子を落とした娘の真凛を大声で怒鳴りつける。叱られる真凛の姿に自分を重ねてしまった奏は、過換気症候群に陥ってしまうが、来店していた救急救命士の檜山亮平に助けられる。



この店は亮平にとっても特別な場所だった。中学の頃、親の離婚や学校でのいじめが原因で非行に走っていた亮平は、欣子や店の常連で民生委員の武田謙三が世話を焼いてくれたことで更生できた。そして自分も人の役に立ちたいと思い、救急救命士を志した。亮平との会話で、心が安らぐのを感じる奏。

ついに奏のアルバイトが母・ゆかりに気付かれてしまう。激怒し、強引に辞めさせようとするゆかりに反発する奏。ゆかりの心無い罵りの言葉に大きなショックを受けた奏は家を飛び出し、夜の街を呆然と彷徨う。その足は自然と欣子の元へ。子どものように泣きじゃくる奏を欣子は優しく励ます。



数日後、真凛が一人でコンビニにやってくる。以前から真凛のことを気にかけていた奏は、その様子を不審に思い、話を聞いてみようとする。奏に心を開いた真凛は、奏を自宅へと案内する。そこには夫からのDVによって怪我をし、倒れている優奈の姿が。驚き、戸惑いながらも、奏は母子を助けるべく無我夢中で行動する。

保護された真凛から感謝のメッセージが奏に届く。奏の勇氣ある行動をねぎらう欣子たち。そんな奏の胸には自分で見つけた自分だけの夢が生まれていた。奏は母親と向き合う決意をし、自宅への道を歩いて行く…。



学習の
ねらい

- 子どもの頃に心に傷を負い、孤立し、困難を抱えている若者が、些細なきっかけから視野を広げ、多様な視点や価値観を認め、一人ひとりの生き方を尊重するようになることについて考える。
- ライフステージの移行時や、それに伴う環境の変化で様々な問題に直面する子ども・若者が、家庭や学校・地域等における人とのつながりの中で、他者を信頼し、社会的な成長を遂げ自立していくことについて考える。
- 児童虐待やいじめ等の発生予防として、地域での子育て支援や子どもの育成への地域の関わりについて考える。

プロデューサー／中鉢裕幸・久慈麗人 脚本／山上梨香 監督／田口仁

公益社団法人 尼崎人権啓発協会

〒660-0051 尼崎市東七松町1丁目23-1 (尼崎市役所内 中館7階)

電話 (06) 6489-6815 ファックス (06) 6489-6818

ホームページアドレス <https://hcg22501.wixsite.com/hcg22501>